

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	(公下)雨水施設管理事業	会計名称	公共下水道特別会計		担当課	都市住宅課	
		予算科目	1 款 1 項 2 目	事業番号	9407	所属長名	三谷陽紀
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	大塚直人	
法令根拠等	下水道法環境基本法				実施期間	【開始】	令和/平成 18 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 潤いのある水環境づくり					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	総合計画の取組方針を達成するために、施設を適正に維持管理し浸水被害を未然に防ぐ。						
事業の対象	市民			事業の目的	市内各所にある3つの雨水ポンプ場施設及び雨水管・下水路を適正に維持管理を行い豪雨災害等を未然に防ぎ、地域の防災・安全の確保を図る。		
事業の内容 (整備内容)	市内各所にある3つの雨水ポンプ場施設の維持修繕及び下水排水路の維持管理作業。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	25,915	21,110	0	0	0	20,179	浸水被害戸数	件	0	0	0	0
財源内訳												
国庫支出金	0	0	0	0	0	0						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	0	0	0	0	0	0						
一般財源	25,915	21,110	0	0	0	20,179						
職員の人工(にんく)数	1.00	1.00				1.00						
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	33,897	29,102				28,171						
主な実施主体	伊予市		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)									
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	5年間の合計		
					21,000	21,000	21,000	18,000	18,000	99,000		
成果指標	指標	浸水被害戸数	単位	⇒	区分年度	前年度	1年度	2年度	目標	毎年度		
			件		目標	0	0	0	0			
	指標設定の考え方	浸水等の被害を未然に防ぐことで適正な維持管理が行われている。			実績	0	0	0	0			
	指標で表せない効果											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		市内3箇所の雨水ポンプ場 (安広・大谷・梢川) と都市下水路について、適正な排水処理が出来るよう日々の点検や改修等を行い、浸水被害を防ぐことが出来た。また、施設の機器類について、専門知識のある業者に定期点検等を含めた、管理委託の実現に向けて検討を行った。						
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	定期的な点検作業等を行い、ポンプ施設と都市下水路スクリーンの清掃を行った事に合わせ、安広排水区のスクリーンの改修したことにより、清掃の効率化が図れた。また、令和2年度より、大谷・安広雨水ポンプ場の機器類について、専門知識のある業者に一部を委託し、確実な保守点検を行えることとなった。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4			
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	5			
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4			
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進に向け、効果を認めることができる。	4			
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	5				
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3				
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 雨水処理施設を適切に維持管理することにより、浸水被害を未然に防ぎ地域の安全の確保を図るため。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3			
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4			
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4				
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4				
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
	コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3					
	市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3					
評価	所属長	事業の方向性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 雨水処理施設を適切に維持管理することにより、浸水被害を未然に防ぎ地域の安全の確保を図るため。	
所属長の課題認識	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	ポンプ場の計画的な機器の更新について、財源の確保を含めた検討を行ない、適切な維持管理が行えるよう努めなければならない。			

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		■	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
			市民の安全・安心に寄与する重要な事業である。 活動指標の項目に空白部分が3段あるから、3ポンプ場における関係市民から雨水についての問い合わせ件数、現地確認件数などを記載することでより分かりやすいものとなると思うので検討をすること。 市街化区域内にある米湊、新川地区の農地は年々宅地化の開発が進み排出される雨水も増加していることから、今後の雨水管渠整備や大谷ポンプ場拡充整備を視野に検討すること。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	■	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	